



▲【豊岡市ひだか花の基地公園】
開館時間 午前9時～正午、水曜日休館

笑顔の花を 咲かせましょう

花は四季折々の表情を見せ、見る人の心を優しくします。
花の魅力と花づくりの楽しみ方を知ってもらおうと活動
を続けられている方を紹介します。

はせがわ 長谷川 美枝子 さん（68歳）日高町^{によう}祢布在住

生まれ育ったまちを 花いっぱい



▲地元の会社に勤めていた長谷川さんは定年後、花花グループに参加。その活動拠点となる「花の基地公園」には、100種類以上の花が咲き誇る

「私の生まれ育ったまちを、きれいな花でいっぱいにしたいんです」と話すのは、豊岡市日高町花と緑の協会・花花グループ代表を務める長谷川美枝子さん。

花花グループは、花や園芸の趣味を活かして、ボランティアで人々の役に立ちたいという有志8人で構成されています。

長谷川さんが花づくりのボランティアを始めたきっかけは、見る人の心を落ち着かせ、和ませてくれる花が好きだったからです。そこに、定年後は何かに打ち込み、やがてその活動を通して「人々の役に立ちたい」という強い思いが

年に一度の花の祭典

花の基地公園を会場に毎年4月29日（みどりの日）に行われる「ひだかフラワーフェスティバル」は、地元ボランティアの協力を得て、同グループ所属の豊岡市日高町花と緑の協会により開催されています。

フェスティバルでは、花苗・野菜苗の即売会や園芸・

盆栽相談、コンテナガーデンづくりなどが行われ、なかでも人気があるのは、コンテナガーデンコンテストです。

これは、寄せ植えを趣味とする一般の方から応募された、プランターや鉢などを使った春の寄せ植えが展示発表されるものです。配色・配列などを重点的に審査し、優秀作品には各賞が贈られます。

今年のフェスティバルも好天に恵まれ、市内外から多くの人で賑わいをみせました。

花の基地公園は いつも笑顔の花が満開

メンバーの吉谷カオルさん（同地区在住）は、「花が好きという同じ気持ちのメンバーたちと一緒に取り組んでいると、とても楽しく気分転換になります。時には力仕事もありますが、好きなことをしているのが苦になりません」と目を輝かせています。

『メンバー全員が主役』をモットーとする同グループは、水やりから花の基地公園周辺の草刈りまで、メンバー全員で行います。時には世間話にも花を咲かせながら、大

私たちの活動が 広がるといいですね

同グループは今秋開催されるのじぎく兵庫国体に向けて、市と連携して花いっぱい運動を展開しています。

長谷川さんは、「皆さんも花づくりに挑戦して、花の魅力を知ってもらいたいです。そして、花を愛でる優しい気持ちと、その時間を持つ心のゆとりを楽しんでほしいですね」と来場者を迎えるため、日に日に成長する花々に優しい目線を送っていました。



▲フラワーフェスティバルでは、美しい花が訪れた人々を魅了した